

水道事業におけるアセットマネジメント（資産管理）に関する手引き
～中長期的な視点に立った水道施設の更新と資金確保～

令和8年4月

国土交通省 水管理・国土保全局 水道事業課

はじめに

水道施設を計画的に更新し、この資産を健全な状態で次世代に引き継いでいくことは現世代の責務であり、その中でも水道事業の運営・管理を担っている水道事業者等の役割は特に重要である。高度経済成長期等に急速に整備された水道施設の老朽化が進行し、大規模な更新ピークを迎えつつある今、水道施設の計画的更新は全国の水道事業者共通の最重要かつ喫緊の課題となっている。

長期的財政収支に基づき施設の更新等を計画的に実行し、持続可能な水道を実現していくためには、各水道事業者等において、長期的な視点に立ち水道施設のライフサイクル全体にわたって効率的かつ効果的に水道施設を管理運営することが必要不可欠となるが、これらを組織的に実践する活動がアセットマネジメント（資産管理）である。

平成 21 年 7 月に、全ての水道事業者等においてアセットマネジメントの実践が推進されることを意図して「水道事業におけるアセットマネジメント（資産管理）の手引き」を策定した。

その後、平成 30 年 12 月に水道法の改正により、「点検を含む施設の維持・修繕を行うこと（第 22 条の 2）」、「台帳の整備を行うこと（第 22 条の 3）」が義務付けられたほか、「長期的な観点から水道施設の計画的な更新に努めなければならないことと、そのために水道施設の更新に要する費用を含む収支の見通しを作成し公表するよう努めなければならないこと（第 22 条の 4）」が示された。

令和 6 年 4 月には、水道行政が厚生労働省から国土交通省及び環境省に移管され、国土交通省では、災害への備えを万全にする「強靱化」、将来にわたりサービスを提供する「持続可能性」の確保に向けた新たな政策を強力に推進している。

これら環境の変化により、将来にわたって安定的に水道事業等を経営するため、長期的な視点に立ったアセットマネジメントの実践が、本手引きの策定時と比べより一層強く求められるようになってきていることを受け、本手引きを改訂する運びとなった。

持続可能な水道事業の実現には、長期の更新需要・財政収支見通しに基づく更新投資を先送りしない計画的な施設更新・資金確保が必要不可欠であることを強く認識する必要がある。各水道事業者等が本手引きを積極的に活用することにより、アセットマネジメント（資産管理）を継続的に実践し、より健全な水道が次世代へ確実に引き継がれていくことを期待する。

令和 8 年 4 月

国土交通省 水管理・国土保全局 水道事業課

目 次

第Ⅰ編 総論～アセットマネジメント（資産管理）に係る基本的な考え方

1. アセットマネジメント（資産管理）とは.....	I - 1
1-1. 必要性.....	I - 1
1-2. 定義等.....	I - 9
1-3. 効果.....	I -10
2. 本手引きの使い方.....	I -14
2-1. 目的.....	I -14
2-2. 構成.....	I -15
2-3. 活用方法.....	I -17
3. アセットマネジメント（資産管理）の基本事項.....	I -18
3-1. 構成要素と実践サイクル.....	I -18
3-2. 検討期間.....	I -24
3-3. 資産管理水準の段階的向上.....	I -26
3-4. 実施体制.....	I -33

第Ⅱ編 各論～アセットマネジメント（資産管理）の実践手法

「第Ⅱ編 各論」の使い方.....	Ⅱ - 1
1. 必要情報の整備.....	Ⅱ - 3
1-1. 必要情報の収集・整理.....	Ⅱ - 3
1-2. データベース化.....	Ⅱ - 9
2. ミクロマネジメントの実施.....	Ⅱ -14
2-1. 水道施設の運転管理・点検調査.....	Ⅱ -14
2-2. 水道施設の診断と評価.....	Ⅱ -18
3. マクロマネジメントの実施.....	Ⅱ -27
3-1. 検討手法の選定.....	Ⅱ -27
3-2. 更新需要見通しの検討.....	Ⅱ -32
3-3. 財政収支見通しの検討.....	Ⅱ -54
3-4. 妥当性の確認と検討結果のとりまとめ.....	Ⅱ -64
3-5. マクロマネジメントのレベルアップに向けた改善方策の検討	Ⅱ -69
4. 更新需要・財政収支見通しの活用.....	Ⅱ -76
4-1. 水道事業ビジョン等の計画作成における活用.....	Ⅱ -76
4-2. 情報提供における活用.....	Ⅱ -80
4-3. 水道の経営基盤強化に向けた包括的検討.....	Ⅱ -88
5. 進捗管理.....	Ⅱ -90

第Ⅲ編 アセットマネジメント手法の検討事例

1. 検討事例の使い方について.....	Ⅲ－ 1
1-1. 検討事例の位置付け.....	Ⅲ－ 1
1-2. 検討内容.....	Ⅲ－ 2
1-3. 検討手法の選定.....	Ⅲ－ 6
2. 事例とするA市水道事業の概要.....	Ⅲ－ 9
2-1. 沿革.....	Ⅲ－ 9
2-2. 構造物及び設備.....	Ⅲ－ 9
2-3. 管路.....	Ⅲ－10
3. 検討事例1（タイプ3Cによる検討）.....	Ⅲ－11
3-1. 資産の現状把握.....	Ⅲ－13
3-2. 資産の将来見通しの把握.....	Ⅲ－16
3-3. 時間計画保全に基づく更新需要の算定.....	Ⅲ－24
3-4. 状態監視保全に基づく更新需要の算定.....	Ⅲ－32
3-5. 財政収支見通し（更新財源確保）の検討.....	Ⅲ－39
3-6. 妥当性の確認と検討結果のとりまとめ.....	Ⅲ－53
3-7. マクロマネジメントのレベルアップに向けた 改善方策の検討.....	Ⅲ－53
4. 検討事例2（タイプ4Dによる検討）.....	Ⅲ－54
4-1. 施設規模及び配置の適正化の検討（タイプ4）.....	Ⅲ－55
4-2. 財政収支見通し（タイプD）.....	Ⅲ－68
5. 参考事例1（タイプ2Bによる検討）.....	Ⅲ－79
5-1. 推計手法の検討.....	Ⅲ－79
5-2. 資産の現状把握.....	Ⅲ－80
5-3. 資産の将来見通しの把握.....	Ⅲ－81
5-4. 財政収支見通し（更新財源確保）の検討.....	Ⅲ－84
5-5. 妥当性の確認と検討結果のとりまとめ.....	Ⅲ－91
5-6. マクロマネジメントのレベルアップに向けた 改善方策の検討.....	Ⅲ－91
6. 参考事例2（タイプ1Aによる検討）.....	Ⅲ－92
6-1. 推計手法の検討.....	Ⅲ－92
6-2. 資産の現状把握.....	Ⅲ－93
6-3. 資産の将来見通しの把握.....	Ⅲ－94
6-4. 財政収支見通し（更新財源確保）の検討.....	Ⅲ－96
6-5. 妥当性の確認と検討結果のとりまとめ.....	Ⅲ－96
6-6. マクロマネジメントのレベルアップに向けた 改善方策の検討.....	Ⅲ－96